

## 自覚や誇りをもって伝えていくこと



校長 小林 正樹

正門前の紅白の梅の木も美しく芽吹き始め、いよいよ春の足音が聞こえはじめる季節になりました。保護者・地域の皆様におかれましては、本校へのご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。

早いもので、今年度を締めくくる最後の1ヵ月となりました。学校では年度末をしっかりと締めくくり、新たな年度に向け準備を進めています。

3年生は、2月21日（学力検査）、22日（実技面接検査）と埼玉県公立高校の入学選抜に臨みました。自分のもてる力を十分に発揮できたことと確信しております。そして、3月1日の合格発表では、全ての受検生により結果が知らされることを心から祈っております。進路が決定した生徒の中には、第一志望の学校に合格できた人もいれば、そうでない人もいるでしょう。どのような進路に進もうと、楽しいことやうれしいこともあれば、つらいことや大変なこともあります。大切なことは、どこの学校へ行くかではなく、進学した学校で何をするかです。「何をするか」、この言葉を忘れずに、3年生の皆さん充実した生活を送ってくれることを願っています。

さて、3月15日の卒業式まであと2週間となりました。今年度は第49回の卒業式で、来年度には開校50周年を迎えることとなります。これまでの長い大谷口中の歴史の中で、代々の先輩方が学校の伝統を作り上げ、引き継いできました。「伝統」という言葉を辞書で引くと、「前代までの当事者がしてきた事を後継者が自覚と誇りをもって受け継ぐところのもの」（三省堂「新明解 国語辞典 第七版」）や「ある民族や社会・団体が長い歴史を通じて培い、伝えてきた信仰・風習・制度・思想・学問・芸術など。特にそれらの中心をなす精神的在り方」（岩波書店「広辞苑 第七版」）とあります。つまり、これまでの取組や文化、校風などを単に受け渡すだけでなく、精神面でも自覚や誇りをもって伝えていくことが大切であるといえます。お子様の成長が実感できる感動ある卒業証書授与式を挙行できるよう教職員一同努めてまいります。

3年生の皆さん、いよいよ卒業です。3年生として中学校生活を過ごせる日も残りわずかとなり、これまでの様々な想いが駆けめぐっているのではないのでしょうか。いつもそばにいてくれた友達をはじめ、学級担任や教科指導や部活動で関わりがあった先生方と話せる時間も限られています。名残惜しいとは思いますが、これまでの自分の成長に自信をもつとともに、これからの新生活に夢や期待を抱いて過ごしてください。

1・2年生の皆さん、この3月は、別れ（卒業）の月というイメージがありますが、新年度を迎えるための大切な月でもあります。あと1ヵ月もすれば、新入生を迎え入れ、現2年生は最上級生に、現1年生は中学校生活で後輩ができます。これまで以上に、自分で考え、自分で判断し、自分で実践する力を磨いていきましょう。

結びに本年度を振り返り、保護者・地域の皆様をはじめ、ご支援をいただきました多くの方々へ心より感謝申し上げます。ありがとうございました。大谷口中学校のよき伝統を引き続き、これからも「自分に自信をもち、自分や周りの人を大切にできる生徒の育成」に努めてまいります。今後も変わらぬご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。